



日三十二月七年十和昭 (刊日) 日四十二月七年十和昭 第八十二百五千一第 (日曜水)

沐浴される着色回答

流行する心境の変化

興味視されるは監督局の態度
許可されたら平町で行訟
鐵山監督局側から私案の名で
協調案まで出た平町地下探
掘今回の出願に對し愈々最後
の回答とも見られる態度決定
の町會招集は昨報の如く来る
廿六日頃の模様であつて漸く
町民の関心を深められつゝあ
るが右の回答に重大な關係を
もつ委員の大多數も軟弱説に
左右されず前後八日間の視察
調査に得たる事實を詳細に報
告し町會多數の反對に一層有
力な理由を添えて探掘不同意
の回答に決するものと見られ
てゐるが興味視されるは監督
局の態度であつて若し平町の
反對を容れざる場合は鐵山省
鐵山局に次第を陳情し飽まで
所志貫徹に努むる筈で出願の
警察側もまた不許可の際は行
訟だと力んでゐるが探掘絕對
反對の平町某區長は語る
行訟恐れに足らず許可さる
れば平町にも其の覺悟があ
る筈で理由のない反對なら
敗けるだらうが吾々は如何
なる犠牲を拂つても確實に
勝つて見せる、問題に對し
て既往を顧みれば鐵山の言
ふ事が既に正しくない如何
に推測だと言つても或は深
度を深く唱ひ或は深く唱ひ
傾斜の如きも甚だ暖味なも
ので十度だと云へ十二、三
度だと云ふ、勿論探掘では

土用丑に準備する

明日の肉六百貫目

牛七頭に馬六頭豚十二頭

今廿三日の暮は本年初めての
高温で此の分では廿四日
は大暑と土用丑が重なり万葉
集にも詠み残されてゐる一十
年前からの慣用食「肉の食
物は饅が家元で人の体温は夏
も冬も同一だが耐寒は一般
に被覆で暖むるが避暑には皮
を剥く行かす自然夏の衰
弱がある爲めに滋養食を攝れ
ると云はれた様に傳へられて
るが土用丑が饅よりも牛に線

警中豫選出場権獲得

猛打を發揮保中を破る

コールドゲームで大勝

平商の健闘も期待さる

縣下中等野球大會第二日目準
々決勝戦に出場の警中軍は前
日双葉中軍を十A對〇で一
軍投手の好投に得點なかつた

メリ、アンドルーは
道化者または香具師の
手先き者、略してメリ
アンと呼ぶのがそれだ
へばお祭り騒ぎに云
りいといふは楽しい愉
快な陽気な云つた類

隅田川炭礦大出水

坑夫三名生死不明

排水約四晝夜を要す

昨二十二日午後九時頃好間村
北好間小田吉次氏經營の隅田
川炭礦排水坑前道上昇突入
右片引立附近で坑夫十餘名が
入坑採炭作業中俄然物凄い大
出水あり同時に全坑道は
濁水の流れと化した、出水と
同時に附近坑道で作業中の坑
夫十名は命からんく坑外に逃
れ出したが出水ヶ所に最も近
い坑道で作業中の坑夫好間村
北好間小田吉次氏と同佐藤倉
されてゐる

俄かに昇る今日の暑氣

午前十時に九十二度

人間の佳良を喜ばれる

石城地方は稲作の分蘗盛期に
於ける数日前の極端な冷氣に
本年もまた凶作でないかと農
村を憂鬱せしめたが昨二十二
日から期節らしい暑氣に復し
て今日の温度は縣農試石城分
場の標準測(午前十時)で攝氏
二十七度一分(華氏換算八十
二度五分)に上る本年の最高温
度を示したが今二十三日は更
平町に於ける昨二十二日の依

拾遺歌中題詞の「まはこ」は

現今の湯本(三浦町)に懸く

飯坂温泉元湯の鯖湖に強引、

建碑せるは無稽、不當の極み
鮫川 刺史

米共販一般に

拾五錢落

米共販は合計千三百九十二俵
と相場は左記の如くである
勿來一六〇俵(十一圓六錢)
釜屋八〇俵(十一圓平達一
號一〇八俵(十一圓廿六錢)
神谷二七俵(十一圓二錢)大
野一三九俵(十一圓二十錢)
小川一號一四八俵(十一圓
十四錢)同二號五四俵(十一
圓十五錢)平一號四等揃へ
八五俵(十一圓卅五錢)

法の蔭に暖い情

小夕三の家族救はる

檢舉以來六日間一粒の米も

既報過般來平署第二次ダニ狩
りで檢舉された平町大工町鈴
木龜雄(三)は恐喝、暴力、行爲
等續々余罪を自白してゐるが
で引續き取調を受けてゐるが
龜雄の檢舉により残された妻
ふち三は幼児三名を抱えさ
らぬだにその日暮しの細い
生活を営んでゐた一家だけに
困窮のどん底に陥りふちは夫
龜雄の死後翌日から今日まで
六日間文字通り一粒の米もと
らず三人の幼児達だけは辛じ
て親戚近隣の人の情に恵
まれた饑饉で生命を保つてゐ
る程の悲惨さでゴロつきとは
いへ一家の大黒柱を檢舉され
その日の食にも困窮し果てた
ふちは今二十三日午前十時三
十分には

内郷納税表彰

納税額合、納税者の表彰式を

舉行する

内郷村では二十四日午前九時
から同村會議事堂に於て優良
納税額合、納税者の表彰式を
舉行する

膨脹たる科學の前に、其の復

活の要求を必死的に運動して

ゐるが、千古不可解なる地殻

の一部を破壊したるからには
昔を今に無す由もなげであら
う、嗚呼。(昭和十年三月よ
り六月まで、平、川部、東京
等にて隨意、續述)

「補」但し次は、七及び八節等

と連絡、按排して見られたい

足利氏時代、岩崎家の遺起
に因つて、一度び小山文書

産業方面

雨期に多い 豚と病氣 (下)

豚の病氣の徴候とその豫防治療
 豚疫、これは豚敗血症、徴候一潜伏期、人工感染は一日乃至二日、發熱四十一度、呼吸が促進して心悸充進し倦怠して食慾を廢絶し、歩行ひよろ／＼赤色の斑點が現はれる豫防には血清を一、二回注射するとよい、

豚丹毒(豚ロース下痢)この病氣の徴候と潜伏期、三日乃至五日、發熱は四十度から四十二度、食慾を絶つて、嘔吐倦怠、疲勞、嗜眠、痙攣、痲痺、眼の脛が腫脹して秘結後下痢、皮膚淡赤色斑を生じ後に暗赤色帯大になる(菱形扁平疫)豫防及び治療には矢張り血清注射である、

次に猪の病氣であるがまづ「デフテリア」から云へば徴候は食慾不良、肉冠肉髯の紅色乳孔より汁液の漏出、舌根部の發熱呼吸に伴ふゼイゼイの音、臭氣、眼脛の腫脹、粘物の分泌、治療法は免疫血清の應用、雞四乃至六〇〇、成鶏一〇乃至一五〇〇、鼻漏を除き「クレオリン」一%で洗ふ、眼をホー酸五十倍水で洗ふ、義膜を除いて一%の硝酸銀を塗布する、

織の細菌白痢症、この病氣の徴候、羽毛の逆立、粘り氣ある灰白色の下痢便、下痢便による排糞困難、元氣が衰弱して食慾全廢となる、また糞の下垂、嗜眠、腹部膨大、治療は困難で死亡率八〇乃至一〇〇%、此の豫防方法は保護鶏の陶汰、育雛器、育雛場の

清潔、毎日掃除と同時に消毒他群の雞と接觸させないことである、(終り)

しづかに	食事の出来	正し	正し	正し
酒場	喫茶	酒場	喫茶	酒場

平田町 レストラン サロン 電話三五二

スペインG・H・N 元詰
ゴルフポートワイン
 甘味葡萄酒 1・10
 婦人の方には少し水を加へて召し上ると風味一そう佳良です
 (平2) 西村屋薬舗 (電3)

近代趣味
パラソル豊富陳列
ツルヤ
 電話一四〇

冷却力が永久に衰へず
 いつまでも使へる冷蔵庫
 冷蔵器は一と夏や二と夏で構造に狂ひが来て冷へ方が弱る様では眞の文化的重寶と云はれません、其所で木材を最も廉價しそれを完全なる設備の下に數年間十二分に乾燥して使用する、丸はん冷蔵器は絶対に狂ひを生ぜず永久によく冷へる經濟的冷蔵器として御愛用の皆様の間に古くから多大の御信用を博して居ります。
丸はん冷蔵器 平町三丁目 電話三五九

お醤油は ヤマフル
 醤油味噌 たひら正宗 鯨節食料品
山崎合名會社
 明治生命磐城代理店 山崎與三郎
 電話一營業部 二〇番 本店 二七番

農村の更生振興に
天然加里肥
 最も適應する作物!
 蔬菜 馬鈴薯 里芋 しやうが類
 瓜果類ではトマト 茄子の如き比較的病害に強い作物に施用すれば抵抗力を興へ落果を防ぎます
 天然加里肥は酸性でないから如何に施用しても土壤を惡變する虞は絶対にありません
 一俵 廿五錢
 製造販賣 金成國雅
 貨物自動車、の御用命に應じます
 江戶川 電話五四七番

ガソリン モビール油 日本株式会社 石油株式會社
油問屋 關内油店
 支店 支郡山市 電話長三二八
 支店 支郡山 電話長三二八
 支店 支郡山 電話長三二八
 支店 支郡山 電話長三二八
 支店 支郡山 電話長三二八

石炭 水野石炭店
 コークス 炭
 平町郵便局通り
 電話二九九番

新時代の要求
 附屬事業に等外看護婦部を特設いたし皆様の御用向へ身元確實なる婦人を派出致します
平看護婦會
 平町南町 電話三〇七
 會長 清野キヨ
 御手不足の御家庭 輕い御病人の付添妊婦 産婦の御家庭

和洋金銀 金銀 金銀
金屋
 質高 價廉
 本店 平町南町 電話三五九

(磐城共濟病院) 福島縣平町電六四一
 院長 醫學博士 石山謙
 副院長 醫學博士 藤尚輔
 內科 醫學博士 石山謙
 小兒科 醫學博士 藤尚輔
 外科 醫學博士 石山謙
 皮膚泌尿科 醫學博士 藤尚輔
 器病科花柳病科 醫學博士 藤尚輔
 外科耳鼻咽喉科 醫學博士 藤尚輔
 產婦人科 醫學博士 藤尚輔
 事務局長 醫學博士 藤尚輔
 事務局長 醫學博士 藤尚輔
 事務局長 醫學博士 藤尚輔